

滋賀銀 + 池田泉州銀 メインバンク1万6457社 近畿地区シェアは6.94%

合算規模で京銀を抜く、広域連携で勢力圏に変化



本件照会先

三好 暁久（調査担当）
帝国データバンク
大阪支社情報部
06-6441-3100（直通）
情報部：osakajoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/04/17

「滋賀銀行・池田泉州銀行」メインバンク企業数調査

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

「滋賀銀行」と、大阪府を地盤とする「池田泉州銀行」を傘下に持つ池田泉州ホールディングス（HD）が資本業務提携する方向で調整していることが分かった。両行をメインバンクと認識している近畿企業は、2026年3月末時点で1万6457社、近畿内におけるシェアは6.94%にのぼった（単純合算）。滋賀・大阪両府県では、互いにメインバンクのシェアは低位にとどまっているが、協調融資などでの連携が深まれば、近畿中部を横断してシェアを拡大する強力な地銀連合となる可能性もある。

- ※ 帝国データバンク大阪支社では、2026年3月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている近畿2府4県の企業（約23万7000社）がメインバンクと認識している金融機関を抽出し、集計した。調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む
- ※ 本調査のメインバンク企業数は、「COSMOS2」収録の企業データであり、各金融機関が取引している実数とは異なる
- ※ シェアは小数点第3位を四捨五入して計算している

近畿地区のメインバンク企業数ランキング

順位	金融機関名	メインバンク 企業数	近畿地区 シェア
	りそなグループ	35,603	15.00%
1	三井住友銀行	28,875	12.17%
2	三菱UFJ銀行	22,290	9.39%
	滋賀+池田泉州	16,457	6.94%
3	りそな銀行	15,450	6.51%
4	関西みらい銀行	13,486	5.68%
5	京都銀行	11,837	4.99%
6	紀陽銀行	10,731	4.52%
7	南都銀行	9,811	4.13%
8	滋賀銀行	9,140	3.85%
9	京都中央信金	8,435	3.55%
10	大阪シティ信金	7,497	3.16%
11	池田泉州銀行	7,317	3.08%
12	みなと銀行	6,667	2.81%
13	尼崎信金	6,627	2.79%
14	みずほ銀行	6,224	2.62%
15	大阪信金	5,876	2.48%
16	京都信金	5,695	2.40%
17	北おおさか信金	4,561	1.92%
18	姫路信金	2,992	1.26%
19	きのくに信金	2,213	0.93%
20	但馬銀行	2,187	0.92%

(2026年3月末時点)

※企業数は単純合算。近畿地区シェアは小数点第3位を四捨五入

※メインバンク企業数はTDB保有の企業概要データベース「COSMOS2」収録の企業データであるため、各金融機関が取引している実数とは異なる

滋賀県・大阪府のメインバンク企業数ランキング

滋賀県

順位	金融機関名	メインバンク 企業数	滋賀県内 シェア
1	滋賀銀行	8,227	57.17%
2	関西みらい銀行	1,744	12.12%
3	滋賀中央信金	852	5.92%
4	京都信金	529	3.68%
5	長浜信金	502	3.49%
6	湖東信金	432	3.00%
7	京都銀行	341	2.37%
8	滋賀県信組	242	1.68%
9	京都中央信金	171	1.19%
10	三菱UFJ銀行	148	1.03%
⋮	⋮	⋮	⋮
32	池田泉州銀行	4	0.03%

大阪府

順位	金融機関名	メインバンク 企業数	大阪府内 シェア
1	三井住友銀行	17,472	15.68%
2	三菱UFJ銀行	17,236	15.47%
3	りそな銀行	13,008	11.67%
4	関西みらい銀行	10,812	9.70%
5	大阪シティ信金	7,388	6.63%
6	池田泉州銀行	6,304	5.66%
7	大阪信金	5,815	5.22%
8	北おおさか信金	4,384	3.93%
9	みずほ銀行	4,308	3.87%
10	紀陽銀行	2,759	2.48%
⋮	⋮	⋮	⋮
38	滋賀銀行	109	0.10%

まとめ

4月16日、滋賀県トップの「滋賀銀行」と、大阪府を地盤とする「池田泉州銀行」を傘下に持つ池田泉州ホールディングス(HD)が資本業務提携に向けた調整に入ったことが分かった。

本調査によれば、メインバンクシェアは滋賀銀行が近畿8位(3.85%)、池田泉州銀行が同11位(3.08%)。両行を単純合算すると1万6457社、シェア6.94%に達し、これは独立系で近畿トップを走る京都銀行(1万1837社、シェア4.99%)を上回る規模となる。越境での融資競争が激化する近畿圏において、有力な地銀連合が誕生することを意味する。

「滋賀銀行」は地元・滋賀のほか京都に強みを持ち、「池田泉州銀行」は大阪や兵庫にシェアを有する。一方、「滋賀銀行」は大阪府で0.10%のシェア、「池田泉州銀行」は滋賀県で0.03%のシェアにとどまる。取引先基盤の重なりが少なく、競合摩擦が軽微である点は、顧客紹介や広域ネットワークの構築といった“伸びしろ”の最大化につながる可能性を秘める。

メインバンク企業数では、「滋賀銀行」が「池田泉州銀行」を上回るが、預金残高や貸出金残高といった経営指標をみると、両行は極めて近い規模にある(下表参照)。今回の提携は、これまで規模の面で拮抗していた「南都銀行」や「紀陽銀行」にとっては、勢力圏が塗り替えられる脅威となるだろう。

平成時代以降、再編が進んできた近畿金融界において、独自路線を貫いてきた両行が動いた意味は重い。今回の提携は、単なる二行間の協力にとどまらず、停滞していた近畿金融界の再編を再始動させる“号砲”となるかが注目される。

	預金残高	貸出金残高
滋賀銀行	5兆9380億円	4兆6173億円
池田泉州銀行	5兆8318億円	4兆8383億円

(いずれも2025年12月末時点)